

平成28年度 外交・安全保障調査研究事業費補助金

【調査研究機関間知的アセット共有事業】

企画分野

以下の①及び②の両テーマを含む企画を、企画競争形式により原則として1件選定する。

① アジアの外交・安全保障と国際関係

現在アジアにおいては、パワーバランスの変化や人口動態の変化等により、安全保障においても経済関係においても大きな変化が見られる。また、このような変化は現在の状況に限ったものではなく、近代以降アジアにおける国際関係・国際情勢はダイナミックな変化を遂げてきた。

日本において行われている日本を含むアジア地域の国際関係の変化については、外交・安全保障関係、経済関係、及びこれらに関連する各国・地域の内政の各観点から、優れた業績が少なくない。しかし、大学やシンクタンクに所属する研究者、ジャーナリストによって蓄積されたこのような貴重な業績は、必ずしも英語を始めとする主要言語に翻訳されていないため、欧米を中心とする知的コミュニティに十分共有されていない。このことは、長い歴史を持ちかつ現在も変化するアジアの国際関係への理解が、国際的には不十分であることの遠因になっている。

アジア地域における外交・安全保障及び国際関係に関し、日本が有する研究業績を、当該地域についての国際社からのより深い理解につなげる観点から精査し、英語を始めとする主要言語に翻訳して、海外の研究機関や大学等とのネットワークを通じて共有することは極めて重要である。

② 日本の平和国家としての歩みと国際秩序への貢献

日本は、先の大戦の深い反省のもとに、戦後、自由で民主的な国家として、平和国家としての道を歩み、世界の平和と繁栄に貢献してきた。また、日本は安全保障秩序、経済秩序、グローバル・ガバナンス、各種の国際的ルール・規範作りの構築についても、民主主義・市場経済・法の支配といった日本が有する基本的価値に基づいて、貢献してきた。

一方、日本が戦後、世界各国・地域、アジア・太平洋地域、国際社会とどのように関わり貢献してきたか、また国際秩序の維持・形成・発展にどのように関わり貢献してきたかについて、日本で発表されている論文や他国で発表されている日本に関する論文等の業績が必ずしも英語を始めとする主要言語に翻訳されていない。このため、日本が積み重ねてきた戦後の平和国家としての歩み

や国際秩序への貢献について、欧米を中心とする知的コミュニティの理解は十分とはいえない。

日本の平和国家としての歩みと世界秩序への貢献に関する研究業績を、国際社からのより深い理解につなげる観点から精査し、英語を始めとする主要言語に翻訳して、海外の研究機関や大学等とのネットワークを通じて共有することは極めて重要である。

(了)